

---

# 真・詩詠い物語-儂き夢の物語-

斬龍黒牙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真・詩詠い物語 - 儂き夢の物語 -

### 【Nコード】

N2876T

### 【作者名】

斬龍黒牙

### 【あらすじ】

詩詠い物語のリメイク版です

## 御伽噺

これは昔昔の物語。

ある所に、一人の少女がいました。

少女はとても美しく、また心も清らかなため、多くの人や動物、果てには神様から愛されていました。

しかし心よく思わなかった方がいました。

それは美を司る女神様です。

その女神様は自分が一番美しく、また自分が世界の中心であると考ええるような自己中心的な性格です。

なのでいつも、少女を嫌って意地悪をしたり、貶めようとしてきましたが、すべて失敗に終わり、いつも機嫌が悪くしていました。

そんな女神様はあるとき、神界に封じている災禍の箱のことを思い出し、これを少女にプレゼントとして送りつけてしまおうと考えました。

そして少女の家の前にこの箱を置きそのまま、逃げるように帰って行きました。

そして悲劇は起こりました。

少女はいつも誰かから贈り物を貰っていたため、この箱もまたその

一つだろうと考え、箱を開けてしまいました。

するとどうでしょう。

箱から黒い霧が出てきたと思ったら、少女を包み込んでしまいました。

その後黒い霧は少女から離れるとバラバラになり無数の光となって散り散りになりました。

取り残された少女は、その場に倒れ込んでしまいました。

そしていつものように様子を見に来た神様は倒れ込んでいる少女と近くにあった箱を見て驚き、すぐさま他の神様達を呼び出しましたが、事態は深刻になっていました。

あちこちで異常な生命の発生に魔法などを使うもの、さらには災禍の権現である、7体の悪魔も現れ地上をむちゃくちゃにしてみました。

神様達は急いで災禍を押さえ込み、また箱に封印しましたが、災禍の悪魔達は狡猾で自分達だけでなく、少女の魂をも封印させました。以来、その箱の名前はその少女の名前をとってこう呼ばれるようになりました。

「パンドラ災禍の箱」と

## 四人の子供（1）

「ねえ！黒龍。今日は二人に会えるね。」

少女は少年「黒龍」に言うと黒龍は少し苦笑をした。

「風華。遊びに行くんじゃないよ？あ無いんだよ？一応俺達は街のバザーに参加するために・・・」

黒龍は少女「風華」に言うと、風華は少し顔を膨らませた。

「別に良いじゃん。どうせ私達なんかいてもいなくても、関係無いし。」

風華がそう言うと、黒龍は「違うない。」と笑う。

二人はこの村「ハル村」の仲の良い二人で周りからも夫婦とからかわれる程仲が良い。

ちなみに風華は村の村長の娘さん。黒龍は村にいる闘士（村の警察兼魔獣退治をする人）隊長の息子だ。

風華が森に行き行方不明の事件になった時、黒龍が魔獣に襲われている風華を発見し、たった一人で護ったのだ。

それ以来風華は黒龍を好きになり、黒龍も自分のことを好いてくれる風華が好きなのである。

「そう言えば、二人は何か言ってたのか？」

黒龍が尋ねると風華はニマリと笑い。何かの紙を見せる。

## 四人の子供（1）（後書き）

風華「ようやく更新ね。って短っ！」

黒龍「どういつ訳か聞こっ」

えっ？PSPで投稿することにしたから。  
あとは気分によって書くけど。

風華「あっちは毎月更新してるのに・・・」

まあまあ。（実際こっちは書くとかかなり長いからPSP更新にしたんだよなー。）

黒龍「なるほどな。」

えっ！？何がなるほどなの！

黒龍「風華。作者は実はメンド臭いかららしいぞ！」

えっ！？なぜにそんなまとめ方！！！！

風華「一遍死んでこい！！！」

うわぁー

黒龍「まったく。作者がPSP更新にしたから内容はかなり薄い  
これで少しはマシになるだろう。」

## 四人の子供（2）

「久しぶりね、ラグル」

「ああ。約二週間ぶりかな？シルヴィア」

「ええ」

少年・ラグル・と少女・シルヴィア・は、とある喫茶店で和みながら話をしていた。

「ようやくバザーの日だな」

「ですね。早く会いたいですね、風華さん達に」

「黒龍の手紙によれば、今日の夕方頃にこちらに向かうそうだから、着くのは日が沈んで少ししてからだろう」

ラグルは紙を広げながら、シルヴィアに見せた。

「なら明日は四人で少し遊びましょうよ」

シルヴィアはイタズラっぽくラグルに微笑み、ラグルはため息を吐いた。

「まったく。一応僕の立場も考えて欲しいよ・・・」

そう言うとラグルは満更でも無いのか何かの紙をシルヴィアに見せた。

「なんですか？これは」

「許可証だよ。こつ見えて、魔術学校に通ってるんでね。これは休んでも構わないと言う許可証だよ」

「なるほど」

シルヴィアはなんとなく頷いた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2876t/>

---

真・詩詠い物語-儂き夢の物語-

2011年11月15日04時01分発行